

顧准(顧准 1915-1975)

革命後の社会システムを考察

講師 福光 寛(成城大学教授)

1

はじめに

- ・ 顧准を知り彼の遺著『理想主義から経験主義へ』を掘り下げて読みたいと考えて、今回の作業でそれをある程度実現した。その結果、この本は、議会制度を否定したレーニンの『国家と革命』における直接民主主義論を批判した、中国では大胆な議論だと考える。
- ・ 中国では、共産党による支配が続くなか、そのもとで民主主義化をどのように達成するか、広げてゆくかは課題になっている。顧准(顧准)議論は、マルクス=レーニンなどの古典を神聖視する教条主義を批判し、経験に立ち返って、西歐的議会制度への移行を主張するもので、中国の社会主义体制下の民主化を考えるうえで、注意を払うに値する論点を含むものと考える。